

令和3年産 コメ通信

第6号（令和3年7月6日）

【発行】

北秋田地域振興局農林部農業振興普及課
（電話0186-62-1835）

葉数やや多く茎数は並！ 適正な肥培管理を！

1 生育状況と気象経過

【気象経過】

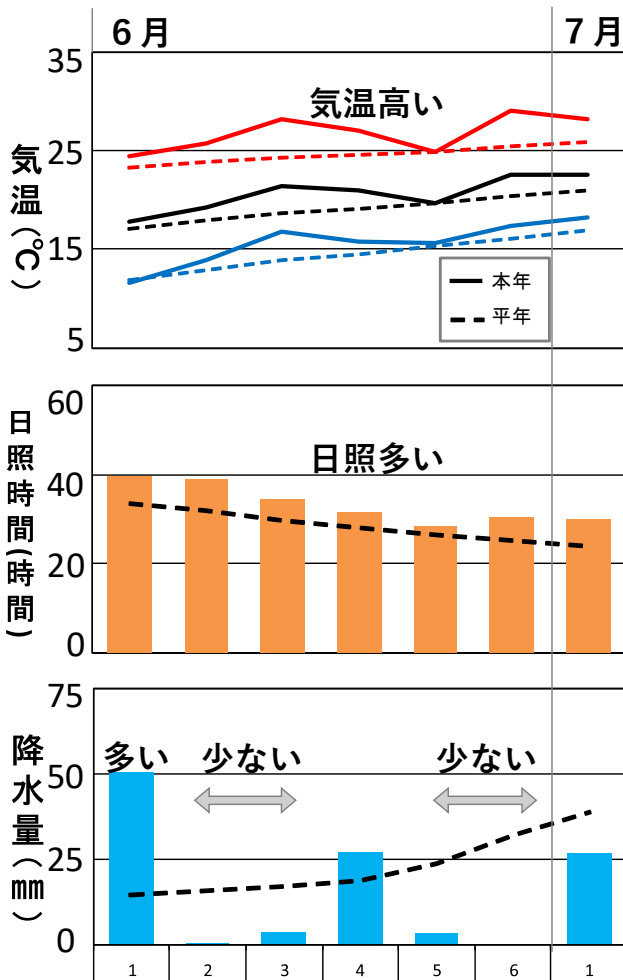


図1 気象経過図（アメダス鷹巣）

○仙台管区气象台発表の東北地方の1か月予報（7月3日～8月2日）で、7月3～16日は平年よりも曇りや雨の日が多く、平均気温は高くなるとされています。

【生育状況】

表1 定点調査結果

（7月5日 9地点あきたこまち）

	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉数 (葉)	葉色
本年	53.7	592	10.6	42.8
平年	51.2	606	10.2	43.1
前年	53.5	601	10.3	42.7
平年比	105%	98%	+0.4	99%
前年比	100%	99%	+0.3	100%

※平年は過去10か年の平均値

※葉色はSPAD-502で測定した値

○前回調査（6月25日）以降も好天が続いたため、7月5日現在の管内水稻定点調査ほの生育は、草丈が平年よりやや長く、葉数が平年よりやや多く、茎数・葉色がいずれも平年並でした。

2 中干し後の水管理

○中干し後は、根の活力を維持するため、急激な湛水管理は避けて間断灌水を行います。幼穂形成期に土壤水分が不足すると1穂着粒数が減少しますので、中干しは、幼穂形成期までに終わります。今後の状況に合わせて適切な水管理を行ってください。

○ただし、カドミウム含有米の発生防止対策地域では、田面が空気に触れないように出穂期の前後各3週間（7月15日頃～8月25日頃）の常時湛水管理を徹底します。

3 主要病害虫の防除対策

▼飼料用米も主食用米と同様に、病害虫防除を行ってください▼

【いもち病】

○BLASTAM（アメダス）の判定では、管内で6月13日に感染好適日が観測されています。その後は感染好適日は観測されていませんが、東北北部は6月19日頃（平年値6月15日）に梅雨入りし、今後感染好適日が出現する可能性がありますので、ほ場の見回りにより早期発見に努めましょう。病斑を発見したら直ちに予防剤と治療剤の混合剤（ブラシンまたはノンブラス）を散布してください。

【斑点米カメムシ類】

- 畦畔では、イネ科雑草が出穂していると、アカスジカスミカメ・アカヒゲホソミドリカスミカメといった斑点米カメムシ類の発生量が多くなる傾向にあります。
- 出穂の10～15日前まで畦畔や農道等の草刈りを徹底し、斑点米カメムシ類の発生源をなくしましょう。地域で一斉に草刈りを行うと効果的です。
- 本年は、斑点米カメムシ類の発生量が多いと予想されています。水田内のホタルイ類等のカヤツリグサ科雑草やノビエの除草を徹底しましょう。

4 あきたこまちの追肥判断

【幼穂形成期の予測】

- 日平均気温から算出したあきたこまちの幼穂形成期（幼穂長2mm期）は、平年より早まると予測されます（表2）。
- 田植日で予測に差があることから、各ほ場を確認し、管理を適期に行ってください。

表2 幼穂形成期の予測（アメダス鷹巣）

田植日	幼穂形成期（平年値）
5月15日	7月9日（7月13日）
5月20日	7月13日（7月16日）
5月25日	7月16日（7月18日）
5月30日	7月18日（7月21日）

※中苗。7月6日以降は平年値で計算。

【栄養診断による追肥の判断】

- 幼穂形成期に栄養診断を行い、下表を参考に追肥を検討してください。
- 幼穂形成期の極端な葉色低下は、1穂着粒数の減少・有効茎歩合の低下を招きます。
- 幼穂形成期に葉色が濃く草丈が62cm以上の場合は、倒伏の可能性が高くなるので、穂肥の施用を控えます。

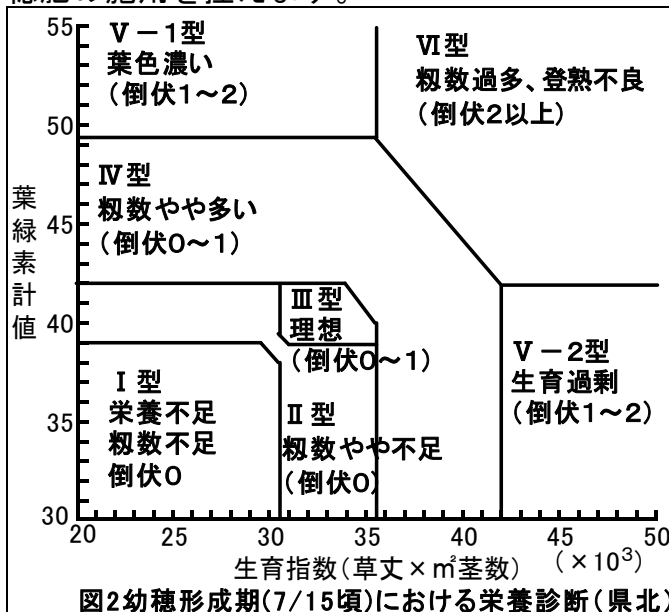


表3 生育型における窒素追肥量

生育型	窒素追肥量(kg/10a)	
	幼穂形成期	減数分裂期
I型	2kg	2kg
II型	2kg	2kg
III型	ムラ直し1kg	2kg
IV型	なし	2kg
V-1型	なし	ムラ直し1kg
V-2型	なし	ムラ直し1kg
VI型	なし	なし

(注)目標収量570kg/10a、あきたこまち

問い合わせはJA、または農業振興普及課まで
HPは「北秋田 コメ通信」で QRコードからも→

